

《千葉県指定無形民俗文化財》

野田のばっばか獅子舞

ばっばか獅子舞は、古くは「子ササウ舞」ともいわれ、元禄6年(1693)、むさしのこくしもまくりむら武蔵国下間久里村(現在の埼玉県越谷市)の住人荒井平兵衛によって、清水・八幡神社に奉納され、その際、渡辺惣内、渡辺寛左衛門の両人が弟子として伝授を受け、今日まで引き継がれてきた。

昭和初期までは、境内にムシロを敷いて提灯の明かりの中で舞う習慣だったが、現在では境内に舞台を設置し、そこで演じられる。

この芸能は、獅子舞と棒術、居合術の三つの要素からなっており、まず、居合の「四方固」で場を清め、六尺棒、三尺棒、刀などの棒術、居合術が交互に「型」を演じる。

そして、獅子舞は太夫(たゆう)獅子、中獅子、雌獅子が腹につけた太鼓を打ち鳴らしながら舞うもので、厄除け、雨乞いを願ったものといわれる。

太鼓を打ち鳴らす音が「バツパカ、バツパカ」と聞こえることから「ばっばか獅子舞」と言われるようになったという。(昭和41年に千葉県無形民俗文化財に指定)

今年、下間久里の獅子舞が清水地区に伝承されてから330周年となる。また、昭和20年代終わりごろから使用されてきた組立式の舞台を昨年修繕したことから、ばっばか獅子舞の源流である下間久里獅子舞(埼玉県無形民俗文化財)を招き、生まれ変わった舞台で舞の披露も行われる。

【日 程】令和5年7月24日(月)午後7時から

【会 場】清水・八幡神社

問合せ＝生涯学習課・内線2651
(直通)04-7123-1366

野 田 市